

平成 25 年 9 月定例会 9 月 11 日一般質問質疑応答状況

質 問 者	質問事項・内容	答 弁 者	答弁内容（検討事項）	検討・対処結果
石川議員	<p>◎若者定住住宅の計画的な建設について 定住対策については、若者向けの住宅の建設、子育て支援、空き家の利活用など、町の最重要課題として取り組まれているが、今回はそれらの中から、定住住宅について問う。 若者向け住宅については、因原・久座仁・南佐木に建設、整備されているが、今後 10 年間を見据えて I ターン者の特化した住宅を継続的に建設していく考えがあるのかお聞かせ頂きたい。</p> <p>◎グラウンドゴルフ公認コースの建設について 近年、グラウンドゴルフの競技人口が 100 人を超え、活発に活動されている。しかし、公認コース（16 ホール）が町内に無い為、全国はもとより、県、市町村規模の大会ですら開催できないのが実情である。 笹遊里 にある 8 ホールのグラウンドゴルフ場を拡張して、公認コースとしての建設を検討していく考えがあるのか尋ねる。</p>	<p>左田野まちづくり推進課長</p> <p>谷川産業振興課長</p>	<p>質の高い住宅は、今後とも整備が必要であると考えており、第 5 次総合計画の中でも数値目標を掲げて重点項目に位置づけ、取り組みを強くすることとしている。具体的な建設場所や住宅の内容については、今後ニーズなどを十分に見極め、より有効的なものとしていきたい。</p> <p>現時点ですぐにグラウンドゴルフの公認コースとして拡張整備をしていくことは考えにくい。しかし、笹遊里の利用率や利便性の向上、町民の健康増進のために役立つ施設として、公認コースについて調査研究していきたい。</p>	
高良議員	<p>◎江の川治水対策について問う 江の川治水対策は、史上最悪と言われる昭和 47 年の洪水以降、堤防設置という形で順次整備されているところであるが、40 年を経過した今日において未だ未整備地区がある。 近年、豪雨による災害は全国で発生しており、この川本町も例外ではない。堤防未整備地区の住民は、天気予報で大雨や豪雨と聞く度に心穏やかでなく不安を募らせているのが現状であり、住民の生命・財産を守る為にも早急に堤防による治水対策が必要である。 江の川の治水対策は平成 19 年 1 月に「江の川水系河川整備基本方針」が国土交通省河川局において示されているが、具体的な整備計画はまだ策定されていない。 このような状況の中で、川本町の堤防未整備地区である、①谷地区、②久料谷地区、③日向地区、④谷戸地区、この 4 地区の治水対策をどの様に進めるかを問う。</p>	森川地域整備課長	<p>河川整備計画は、今後 20 年～30 年後の江の川のあるべき姿について、町民や学識経験者等の意見を踏まえて策定されるもので、河川整備の目標や河川工事などについて、具体的な整備内容が盛り込まれることになっている。</p> <p>島根県は、国土交通省の直轄事業に併せて、平行して県の事業を導入しようとする場合、河川整備計画に沿って実施するという意向で、河川整備計画の策定が急がれるが、「江の川水系河川整備計画」を早期に策定も併せて強く要望していく。</p>	

<p>片岡議員</p>	<p>◎介護保険・要支援者の行方について 介護認定、要支援1・2の人達の処遇について聞く。 国は地方に移譲すると言うが、一般的には、要支援の切り捨てと言われていた。 わが町の対応を聞く。</p> <p>◎災害放送に対する、素朴な質問 道路の通行止め、迂回路の表現が一般の人にわかりづらい。 雨量、ダムからの放出量・水面の高さなど、単なる数字の読み上げでは状況がわからない。</p> <p>◎町有地の管理状況を 時代の要請か。嗜好品という解釈はできないのか。他人に対しての迷惑行為なのかおおよその意見はあるだろうが今までの分煙ではなぜいけないのか尋ねる。</p>	<p>長田健康福祉課長</p> <p>木村総務財政課長</p> <p>木村総務財政課長</p>	<p>この度の国の案はまだ決定されたものでなく、移行時期や具体的な内容等は決まっていない。高齢者の地域での生活を支えるためのサービスのあり方について、邑智郡総合事務組合介護保険課及び関係機関と連携しながら協議を進めていきたい。</p> <p>今後は、予想される水位による浸水想定箇所等の情報提供についても、検討したい。 しかし、ゲリラ豪雨などの異常な降雨状況により、本流の江の川だけでなく支流の状況変化が加わると、予測が大きく変わることも考えられるので、予想以上に町民の不安をあおることとなるような放送は、控えたいと考えている。</p> <p>町有地の管理全般に渡っては、今後も定期的な草刈りや家屋の現状把握を行うとともに、宅地分譲を一層進め、併せて、危険となった家屋等の解体を含め、適切な管理に努めたい。</p>	
<p>圓山議員</p>	<p>◎災害時における対応・対策は万全か 例年がない集中豪雨が当町にも被害をもたらしている。農地の冠水や側溝の氾濫などにより、作物の被害は甚大である。 この度の豪雨で一時避難した地域もある。避難場所に避難したものの、その場に何も無いことが問題であり、対応策が必要だと感じる。</p> <p>さらには、三原地域にはたくさんの道路ができていて迷うくらいだという人もいるが、いずれも行き止まりの道路が多く、有事に対応できる道路ではない。道路封鎖になると、孤立する家庭ばかりであり、速やかに対応を考える必要がある。</p> <p>◎木質バイオマスの対策は 核施設の問題から、エネルギーを自然エネルギーに変更する傾向が強いと感じる。そうした中で近隣の市町村にも木質バイオの設備事業者が参画しているようである。 それに対して、原料の供給する地元事業もある。当町</p>	<p>木村総務財政課長</p> <p>森川地域整備課長</p> <p>谷川産業振興課長</p>	<p>今後、住民の方々に自主防災の意識啓発を図り、自分自身の身を守る対応を行うよう周知を図ることも必要だと考える。 集会所等の避難場所における情報伝達については、防災無線の設置をしているが、避難場所のさらなる設備及び対応等については、今後検討をする。</p> <p>土砂崩れや道路の崩壊により孤立した場合は、応急対策をする必要があるため、関係機関や建設業協会などと事前に対応を協議するなど、有事に備えることが必要だと考える。</p> <p>搬入者は通常の搬入価格の倍の額で売ることができるといったメリットを受けることができるものと考えている。 木材の搬出は危険を伴うこともあり、搬出者の拡充には難しい面もあると思われるが、緑のこだま事業を</p>	

	<p>のチップ材搬出の単価の見直しをしてでも、環境の整備を含めて、協力者の拡大の必要があると感じるが、意見を伺う。</p>		<p>積極的に活用してもらえよう、広報していきたい。 また、搬入にあたっては山林からの運び出し、積み込み、運搬、積み卸し等、危険を伴う作業があり、安全を第一に考えて作業する必要がある。町として、搬入登録者を対象に年に1回は安全研修会を開催する。</p>	
<p>植田議員</p>	<p>◎町の行っている各支援施策について問う 高校支援策、公共交通支援策、農業振興施策等について、現施策は短期的には仕方ないと思うが、将来を見据えた策にはなっていないと思う。理想像を持って、それに向かうビジョンが必要だと考えるが、どうか。</p>	<p>三宅町長</p>	<p>総合計画が将来像であり、これに基づき様々な事業を有機的に連携させ、スピード感を持って、町民と一体となって取り組んでいくことが不可欠であると考ええる。 これを実効的に推進していくために、町の未来像を明確に描き、それに近づくために、中期的・長期的な視点に立って施策展開していくことが必要であると考ええる。 過疎地域が抱える課題を先取りしながら、高校支援や地域公共交通対策をはじめとする諸課題解決に向けて、全力で取り組んでいかねばならないと考える。</p>	